

静岡大学生涯学習教育研究センター

地域と大学

第1号

Newsletter No. 1, Center for Education and Research of Life Long Learning

生涯学習教育研究センターの発足

静岡大学生涯学習教育研究センター長 原 秀三郎

生涯学習社会の構築に向けて、大学開放が大きな課題となっている。静岡大学ではこれまで公開講座の実施や社会人入学、施設開放などいろいろな取り組みがなされてきた。しかし大学開放を一層押し進め、本格的かつ総合的に生涯学習に対応する体制を整えるためには、学内に教育研究機関を設置する必要性が高まってきた。こうした機運の中で、平成9年4月に全国第15番目の学内共同教育研究施設として静岡大学に生涯学習教育研究センターが設置されることとなったのである。

開設以来この約一年間はセンターの陣容を整えるための準備に費やされた。専任教官の任用、教育研究担当教官の選任、資料室の確保といった学内手続きに加え、県・市等地域の生涯学習関連機構との連携・協力体制を整えるべく努めてきた。



生涯学習教育研究センターの発足
(平成9.4.10開所式)
右：佐藤学長 左：原センター長

特に専任教官には、地域社会との連携に特徴を出すべく、大学と博物館施設を結びつける生涯学習の推進と、生涯学習ネットワークシステムの構築を中心とした生涯学習論を進め得る教官を選考し、生涯学習先進地域に位置する静岡大学としての特徴を出すことに意を注いだ。そして専任教官の着任をまって、静岡大学生涯学習教育研究センターの発足を地域にアピールするため、開設記念事業としてシンポジウム『大学開放と生涯学習』を実施することとしたのである。

平成10年2月21日に開催した、開設記念シンポジウム『大学開放と生涯学習』は、講師、パネラーに生涯学習に深い経験をお持ちの多彩な方々をお迎えすることができ、加えて、学内教育研究担当教官の参画と運営委員会の協力を得て、佐藤博明学長及び清水明文部省生涯学習局企画官の臨席のもと、盛況裡に終えることができた。県内生涯学習関係機関および諸団体の職員や、生涯学習に深い関心を寄せる県民の方々の参加は300名にのぼり、大学における生涯学習教育研究センターの設置理念を地域に周知することができたように思う。

私はこの3月をもって静岡大学の定年を迎えるため、生涯学習教育研究センターの本格的な事業展開は、新センター長と専任教官の活躍に大いに期待するところである。終わりに臨み、そのための不可欠な条件として、管理委員会、評議会を中心とした早急な学内協力体制の整備を強く要望したいと思う。



センターの組織と運営、専任教官の着任

生涯学習教育研究センターでは、平成9年4月に設置と同時に運営の円滑をはかるため各学部等の協力を得て、管理委員会、運営委員会を組織するとともに、教育研究担当教官をおいた。また、センター長のもと専任教官として教授1名、助教授1名が平成9年11月から12月にかけて任用された。

管理委員会（◎印委員長）

◎佐藤 博明（学長）

名和 鐵郎（人文学部長）

角替 弘志（教育学部長）

阿部 圭一（情報学部長）

太田 吉彦（理学部長）

岡本 尚道（工学部長／10年度から野田 直剛）

中井 弘和（農学部長）

野田 直剛（理工学研究科長／10年度から池谷 仙之）

安藤 隆男（電子科学研究科長／10年度から畑中 義式）

熊川 征司（電子工学研究所長）

杉田 泰一（図書館長）

山口 忠厚（事務局長）

内田 重男（学生部長／10年度から本多 隆成）

原 秀三郎（センター長／10年度から岡田 嚴太郎）

運営委員会（◎印委員長）

◎原 秀三郎（センター長／10年度から岡田 嚴太郎）

山下 隆之（人文学部助教授）

内山 武治（教育学部教授）

大堀 哲（情報学部教授）

石川 剛志（理学部講師）

深尾 正之（工学部教授）

今永 正明（農学部教授）

伊東 琢史（電子科学研究科教授）

助川 徳三（電子工学研究所教授）

柴垣 勇夫、阿部 耕也（センター専任教官）

教育研究担当教官

角替 弘志（教育学部長・教授）

中井 弘和（農学部長・教授）

専任教官

柴垣 勇夫

（教授 平成9年11月着任、社会教育・博物館学）

阿部 耕也

（助教授 平成9年12月着任、教育学・生涯学習論）

教育研究担当教官からひとこと

『わけあう』

静岡大学農学部長 中井 弘和

昨年秋のはじめ、ダイアナ元皇太子妃の衝撃的な死のニュースが世界中を席卷していたさ中、20世紀を生き、そして21世紀に大きな光を投げかけて、2人の巨星がひっそりと地上から姿を消した。20世紀最高の書の一つ「夜と霧」を著した心理学者・ヴィクトール・フランクルと貧しい人々に生涯を捧げたマザー・テレサである。

フランクルは、ナチスの強制収容所に捕えられ奇跡的に生還した体験のその書の中で、どのような人々が極限状況を強く生き抜くことができたかについて冷徹な文章で書き綴っている。厳しい労働と飢えの中で、わずかに配られる食べ物を自分

より弱っている人たちに分け与えたような人々が強く生き抜くことができたと言うのである。分け合うというささやかな愛の行為が人々の生命力を高めた、ということになるのであろうか。

マザー・テレサの偉大な働きについては周知のことであろう。「貧しい人の中でも最も貧しい人々に仕えなさい。」これは、彼女がシスター達によく語った言葉であるが、そこには与えることによってそれ以上のものが与えられるというメッセージが含まれている。

日本の社会を取り巻く状況はこのところ極めて厳しく、大学にも競争原理が益々色濃く導入されてくるにちがいない。われわれ大学人は、そのような状況の中で、人を押し退けて生きていくのか、あるいは、そうであるからこそ人と分け合って生きていこうとするのであろうか。それは、私たち

ひとりひとりの選択にかかっていることであるが、その時、フランクやマザー・テレサが生涯をかけて残していったものを思い起したいと言いたいのである。

ともあれ、わが静岡大学は、新設の生涯学習教

育研究センターを通して、組織的に地域社会とより多く分け合うことによって、自らの生命力を高めながら、激動の時代を強く生きていくことができる、と私は考えている。

(生涯学習教育研究センター教育研究担当教官)

生涯学習教育研究センター開設記念事業

●シンポジウム「大学開放と生涯学習」の開催

本センターでは、11～12月にかけて専任教官が着任し、センター教官スタッフが揃ったことから、本センターの設立の意図と目的を広く学外に広報するとともに、静岡大学の大学開放への関心を高めるためにシンポジウムを開催した。以下にその概要を記す。



開設記念シンポジウムでの佐藤学長のあいさつ

- ・期 日：平成10年2月21日(土) 午後1時～5時
- ・場 所：静岡市黒金町 静岡音楽館AOI
- ・講師等：筑波大学・山本恒夫氏
静岡県新大学整備推進顧問・庄田 武氏
佐野美術館副館長・渡辺妙子氏
センター長・原秀三郎氏
教育学部長・角替弘志氏
- ・来 賓：文部省生涯学習局民間教育事業室長・清水 明氏
- ・参加者総数：300名（資料の総数では320名）
県・市町村教育委員会生涯学習関係課・公民館・博物館関係者、大学関係者、学生、県生涯大学奨学生等
- ・配布資料：レジュメ、大学案内、静大NOW

佐藤博明学長あいさつに続き、文部省清水 明民間教育事業室長からセンターへの期待が語られた後、山本恒夫氏の「生涯学習社会と大学の役割」と題した基調講演、それぞれの専門の立場から地域社会、博物館、大学センターにおける生涯学習のあり方を提言いただき、その後、角替教育学部長の司会のもとパネルディスカッションに移った。

講師・提言者それぞれの立場から大学センターへの期待が述べられ、地域との連携、大学開放の機会増大・多様性の追及といった大学への要望のほか、大学側では全学の連携と単位修得の方法などの検討が語られた。また会場との質疑応答も加えられた。

特に一般市民の大学への期待も高く、多くの聴衆が熱心に最後まで聞き入り、意見や質問が活発に出された。静岡大学生涯学習教育研究センター開設を地域社会に認識していただく事業として盛況裡に終え、所期の目的を達することができた。

(柴垣)



満員の会場と角替教育学部長司会による
パネルディスカッション

公開講座情報

●平成9年度 静岡大学公開講座実施報告

静岡大学では、平成9年度の大学開放事業の一環として以下のような公開講座を開講した。

①全学講座

- ・「いのち」の現代 9/16～10/21
(静岡会場 (アイセル21) : 受講者55名)
 - ・「いのち」の現代 10/4～11/8
(熱海会場 (市中央公民館) : 受講者50名)
 - ・いじめはなくせるか? 9/27～11/1
(清水会場 (市中央公民館) : 受講者35名)
 - ・いじめはなくせるか? 9/20～10/25
(沼津会場 (市民文化センター) : 受講者36名)
 - ・音の世界 9/13～10/18
(浜松会場 (静大工学部・佐鳴会館) : 受講者40名)
- 公開講座終了時にはアンケートが配られた。ほぼ満足という回答が多かったが、時間・回数を増やせないか、受講費を下げてほしい、討論の機会を増やしてほしいなど多くの意見や要望も寄せられた。

②各学部の公開講座

- ・人文学部：静岡・再発見
一見なれた風景の中に―
(静岡市中央公民館) 11/14～12/12
- ・教育学部：女性テニス教室
(女性対象：静岡大学テニスコート)
9/8～9/19
- ・教育学部：生涯学習社会の構築
一学習機会の拡大とネットワーク化―
(社会教育担当者及び一般市民対象：
静岡大学／静岡県立焼津青少年の家)
2/13～2/14
- ・理学部：体験生命科学
一遺伝子・酵素・ホルモン・発生・バイオ・脳―
(高校生・一般市民対象：静岡大学理学部)
8/30～8/31
- ・理学部：1997 静岡大学公開数学教室
青春16数学キップ
(高校生・一般市民対象：静岡大学理学部)
11/22～11/23



静岡大学人文学部公開講座会場風景
(静岡市中央公民館 平成9年11月14日)

③その他

- ・農学部：公開シンポジウム
「地球環境と農業生態系」
(しずぎんホール) 12/5
 - ・教育学部：「古代の鏡で顔を写してみよう」
(教育学部：県教委、県生涯学習振興財団主催
「ふじのくにゆうゆうクラブ」に協力) 1/24
- 以上、各学部は、一般市民向けだけでなく、特色を生かして女性・高校生・社会教育担当者など対象を絞った講座も開講したり、いわゆる「公開講座」の枠にとどまらない大学開放の試みを行った。アンケートやシンポジウムでの意見からも静岡大学への期待は大きいことがうかがわれ、より一層の大学開放が望まれる。(阿部)

生涯学習教育研究センターでは学内の公開講座実施情報をこのニュースレターに掲載し、広報いたします。平成10年度の計画をTEL・FAX 238-4895 (柴垣) またはTEL・FAX 238-4913 (阿部) まで、お寄せ下さい。

地域と大学 第1号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

平成10年3月31日発行

〒422-8529 静岡市大谷836 (共通教育A棟)

静岡大学生涯学習教育研究センター

TEL 054-237-1111(代)

238-4412(研究協力係)

FAX 054-237-0089(//)